

# 藤並の森

Vol. 75



▲ 櫃入り嫁入本「源氏物語」(個人蔵)／画像提供：勉誠出版

## リレー随筆

### 源氏物語展の開催に寄せて——中野幸一

土佐の高知で源氏物語展をすることになった、と話しますと、なぜそんな所で、という返事が必ず返って来ます。平安文学では紀貫之の『土佐日記』があつて、土佐との縁は浅くはありませんが、『源氏物語』には、須磨・明石や筑紫は出来ますが、四国はあまり縁がないのです。それなのになぜ、と私も初めは思いましたが、今ではそれだからこそ、という気持ちになっています。

そんな前向きな気持ちにさせたのは、ほかならぬ館長をはじめとする文学館の方々、とりわけ担当の方の情熱です。日本の誇る世界の古典『源氏物語』の一端なりとも、何とかして高知の皆さんに知つていただきたい、という執念ともいえる熱い思いが、今回の源氏展となつて開花しました。おそらく文学館としても初めての試みではないでしょうか。

展示品も、数々の制約がある中で、早稲田大学図書館の好意的な協力を得て、天下の孤本を含む四十点以上の逸品を展示することができました。その中でもぜひご覧いただきたいのは、『源氏物語』全巻の小さな巻物です。幅八センチ余りの小巻で、五十四帖全巻の本文を細字で筆写していく、思わず溜め息が出るほどです。装幀も美しく、嫁入本（高貴な姫君用の本）と思われ

ます、他はない天下の孤本です。『源氏之類書』と題する残欠本は、伝為家と伝える鎌倉時代の古写本で、僅か数葉の残簡ですが、『源氏物語』の古注釈書の中で最も古い『源氏釈』の現存最古本の面影を伝えるものとして貴重です。大きな金蒔絵黒漆の櫃に入った『源氏物語』五十四帖の美しい嫁入本は、紺表紙に金泥でその巻の象徴的な絵を描いていて、珍しく美事なもので。

このたびの源氏展は、特に後代への享受・流布の実態が分かるように配慮し、『奥入』『河海抄』『花鳥余情』『細流抄』などの著名な古注釈書や、『源氏』『十帖源氏』『紫文蟹の囲』などの江戸期の絵入本、『修紫田舎源氏』のような合巻、その他花道関係書やかるた・双六・遊戯具まで、広く『源氏物語』の流布の実態を幅広く展示しました。加えて近代の著名な谷崎源氏の初版本、アーサー・ウェイリーの英訳本なども参考までに並べてあります。また『源氏物語』中の和歌をたどつて、物語の紹介にもつとめました。

どうぞこの機会を逃さずに、多くの皆様方のご来館を心よりお待ち申し上げております。

(早稲田大学名誉教授)

# 源氏物語展～雅のDNA～

わが国を代表する古典文学『源氏物語』には、雅やかな文化を背景に、四季の美しさはもとより、愛や恋に生きる男女の心や「あはれ」の情趣が、全五十四帖にわたり、美しく豊かな筆致で綴られています。

本展では、源氏物語の中で詠まれた和歌を中心<sup>1</sup>に、各帖の魅力や当時の文化を絡めながら紹介します。様々な角度から、源氏物語の世界に浸つていただければと思います。また、高知では見る機会の少ない古典籍の数々にも和書など<sup>2</sup>の貴重書にもご注目ください。会期中には、展示替えを行いますので、ぜひ展覧会に何度も足をお運びいただければと思います。

◆土佐光信「源氏物語画帖」より「若紫」(個人蔵)  
／画像提供 勉誠出版



展示構成

源氏物語五十四帖の世界

展示室内では、まず、源氏物語の主人公・光源氏の誕生から女性たちとの恋と、須磨・明石での落魄の日々から、再び栄華を極めるまでと、光源氏が亡くなつた後、新たな主人公となる薰の君・匂宮と、宇治の姫君たちの恋物語を、源氏物語の中で詠まれた和歌や各帖の魅力とともに紹介します。

あわせて展示する和書や絵巻は、「早稲田大学図書館 九曜文庫(文庫30)」の所蔵資料

早稲田大学名誉教授であり、長年、源氏物語研究に携わってきた中野幸一氏が蒐集し

写本や版本、絵画などのさまざまな資料約2千点が、同図書館の所蔵となっています。今回の展示では、中野氏監修のもと、初心者の方から源氏物語ファンの方までお楽しみいただけるように、数ある資料群の中から、写本や錦絵・巻子など約40点の貴重な資料群を精選し、公開することができました。

写本をはじめとする和書は、近世期（江戸時代）以降に刊行されたものをメインに、鎌倉時代や南北朝期の貴重な研究書・注釈書などもまじえて展示します。江戸時代以前の和書

は、善本として現存するものは珍しいのですが、藤原定家の『奥入』や、南北朝時代を代表する『細流抄』などの古注釈書を、特別に展示することができました。

また、金箔が今でも鮮やかに残る『源氏物語  
画帖』(土佐光信画)や、紫式部が石山寺で湖水  
に映る月を見て『源氏物語』の着想を得たと  
いう、起筆伝説を描いた書軸などもぜひご覧  
いただきたいと思います。

その他にも、五十四帖の各場面を描いた目  
にも鮮やかな錦絵や、後世の人による、巻名  
のみで本文のない『雲隠』の補作や、光源氏と  
六条御息所の出会いを書いた擬作・『手枕』  
などにもご注目いただきたいと思います。

性たちに似合う衣装を選ぶ様子が、鮮やかな色の描写とともに描かれています。展示では、薫き物・すごろく・装束・華道など、当時の平安文化と、源氏物語が後世に影響を与えたとされるお香やかるたなどの遊びを紹介します。

土佐光成「紫式部石山寺觀月図」(個人蔵)  
／画像提供 勉誠出版

■山本茜氏 截金コーナー

截金<sup>きりかね</sup>ガラス作家・山本茜氏は、「国宝源氏物語絵巻」の模写を通して、絵師の技術の高さや膨大な手間と美に対する厳しいこだわりを知り、この深淵な美の世界をガラスの中に作ることを目標に、全五十四帖の完成を目指し、源氏物語シリーズを制作しています。

このコーナーでは、截金で表現された源氏物語の深遠な世界を、和歌や場面を添えて紹介します。

■平安文化ギャラリー

源氏物語には、薰き物や絵合わせ、管絃など様々な風俗が描かれ、光源氏と姫君たちの雅やかな暮らしぶりを想像させます。また、「玉鬘」には、光源氏と紫の上が、それぞれの女

中野幸一氏……1932年神奈川県生まれ。早稲田大学名譽教授。專攻は平安文学。  
「フルカドー」見る。知る。読む 源氏物語』勉誠出版、1913年)や『常用源氏物語要覧』(武藏野書院、1995年)を著すなど、源氏物語研究への多大な足跡を残している。また、源氏物語を完訳し、現在、「正訳源氏物語 本文対照」が順次発刊されている。

A Japanese ink wash painting (suiboku-ga) depicting a woman in traditional courtly dress (fukinuki yūzō) sitting at a low wooden table in a garden setting. She is looking down at a small object in a red box. The scene includes a large pine tree on the left, a stone path, and a building with a tiled roof in the background.

い  
す。

(学芸課／野々村昭美)

# 雅のDNA 源氏物語展



## ■展示解説

毎週土曜日には、  
担当者による  
展示解説を開催！

**会期中**  
**毎週土曜日**  
**午後1時半～**  
**(約20分程度)**

参加費：要当日観覧券  
申込：不要。  
直接会場にお越しください。

源氏物語の華やかで情緒豊かなストーリーは、当時の王朝びとにより口伝え・筆写されてきました。写本だけに留まらず、1000年を越えた現在も、多くの作家により現代語訳が出版されるなど、そのDNAは時代を越えて脈々と受け継がれています。また、源氏物語からインスピレーションを受け、新たな芸術作品も生み出されています。

今もなお、多くの人々を魅了し続ける源氏物語の奥深い世界に浸っていただければ幸いです。

源氏物語の翻訳本にも焦点を当て、谷崎潤一郎など日本をはじめ、海外で出版された翻訳本も展示します。

その他にも、平安装束を羽織って楽しめる体験コーナーや、源氏物語をモチーフにした和菓子も紹介しますので、ぜひご覧ください。

ここでは、監修者・中野幸一氏の『正訳源氏物語』の自筆原稿や、これまで出版された研究書の数々などを展示します。中野氏の業績の一端を、紹介できればと思います。

## ■2階ロビー

山本 茜氏…1977年石川県金沢市生まれ。京都市立芸術大学美術学部美術科に入学し、1999年より独学で蔵金を始める。在学中より重要無形文化財「蔵金」保持者・江里佐代子氏に、伝統的蔵金技法を教わる。

## 関連イベント

### ■講演会「源氏物語のことばと表現～『正訳 源氏物語』を訳し終えて～」

監修者の中野幸一氏による、『正訳源氏物語』『フルカラー見る・知る・読む 源氏物語』について、源氏物語の初心者にも分かる解説などをさせていただきます。中野氏による源氏物語の原文朗読もお楽しみいただけます！ **※要申し込み**

- ・日 時：10月9日(日) 午後2時～3時30分
- ・場 所：高知県立文学館 1階ホール
- ・参加費：要当日観覧券
- ・申 込：電話または文学館受付にて事前申し込み。(定員100名)

### ■木洩れ日コンサート

音の文化振興会の会員による雅楽器「龍笛」を中心とした演奏で、『源氏物語』の世界をお楽しみいただけます。

- ・日 時：10月16日(日) 午後2時～3時
- ・場 所：高知県立文学館前 藤並の森
- ・参加費：無料
- ・申 込：不要。当日、直接会場にお越しください。

### ■朗読の会

文学館朗読カルチャーサポーターによる、「源氏物語」の原文を中心とした朗読です。

- ・日 時：11月19日(土) 午後2時～3時30分
- ・場 所：高知県立文学館茶室「慶雲庵」(天候によっては文学館ホール)
- ・参加費：無料
- ・申 込：不要。当日、直接会場にお越しください。

### ■ティーチャーズ・デー

教職員を対象にしたイベントです。  
展示解説のあと、源氏物語に関するお話を聞きいただけます。

- ・日 時：10月1日(土)、11月5日(土)、12月3日(土)  
各日とも午後2時～3時30分
- ・場 所：高知県立文学館 企画展示室
- ・参加費：無料
- ・申 込：電話または文学館受付にて事前申し込み。(定員10名)



他にも工作イベントなど、多彩な関連企画を用意してお待ちしています。

# 常設展虫がね

シリーズで、変わる  
常設展示をご紹介！



## 展示作家紹介 黒岩涙香

黒岩涙香は1862（文久2）年安芸市まれ。本名は周六。ジャーナリスト、新聞経営者であり、日本探偵小説の元祖。

1888（明治21）年「今日新聞」に「法廷の美人」を発表すると大好評となり、以後、翻案探偵小説を次々と新聞紙上にて発表し、「絵入自由新聞」では「有罪無罪」「片手美人」などを、1889（明治22）年に「都新聞」主筆となつてからは「執念」「死美人」などを発表。新聞の売り上げに大いに貢献しました。

1892（明治25）年には自ら新聞社を設立、「万朝報」を発刊します。「万朝報」は簡単・明瞭・痛快をモットーとして、社会悪に対しても徹底的に追及するという編集姿勢で人気を博しました。「万朝報」には涙香の翻案小説が毎回掲載され、涙香小説人気で新聞の売り上げはまたたく間に伸び、1899（明治32）年末には東京の新聞トップの売り上げを誇る新聞へと成長します。『鉄仮面』や『巖窟王』、『噫無情』など多くの名作が「万朝報」の紙上から生み出されました。

日本を代表する探偵小説家・江戸川乱歩は黒岩涙香の愛読者として知られ、乱歩の自伝的回想録『探偵小説四十年』のはじめの頁には「涙香心醉」の項目が出てきます。乱歩は高等小学2年生の頃から中学1、2年にかけて涙香に夢中に

なり、最も印象に残っている涙香作品として『幽靈塔』をあげています。  
後年、乱歩は涙香作品と同名の『白髪鬼』『幽靈塔』を発表。これは涙香の作品をさらに翻案したもので、涙香作品は乱歩にとって創作の上でも重要な作品となっています。

また、今年4月には、1888（明治21）年に「今日新聞」紙上で発表した『人耶鬼耶』がインパクト出版会から涙香の原文のまま出版されており（池田浩士校訂・解説）、今も続く涙香人気が窺われます。

今回の展示では「万朝報」の原物や涙香の初版本、パリ講和会議使節団に同行時の欧州土産の品々などを展示しています。また、常設展示室内的閲覧コーナーでは涙香作品をお読みいただくこともできます。（学芸課／岡本美和）



▲展示風景

高知県立文学館では、いつも来ても新しい発見、新しい体験をしていただけるよう、展示入替を行っています。今年度は「自由民権」コーナー・坂崎葉闘、「反骨の大衆文学」コーナー・黒岩涙香、「現代の文学」コーナー・小山いと子を新たにご紹介しています。

## 館長室から

元吉 喜志男

さる7月7日、反骨精神と鋭い感性にユーモアを交え、軽妙な語り口で多彩な分野に大きな足跡を残してきた人物が83歳の生涯を閉じた。永六輔さん。テレビ放送の草創期に早稲田大学在学中からテレビ、ラジオ界に入り、放送作家の草分け的存在として活躍。ラジオ番組のパーソナリティ、タレント、随筆家、作詞家など様々な顔を持ち、マルチな才能を発揮して華々しい活躍を見せた。

計報のニュースに、約16年前の“あの日”のことと思い起こしていた。第50回高知市夏季大学（2000.8.10）。仕事を終えて、急ぎ会場の高知県立県民文化ホールへ向かつた。人気講師の来高に開演30分以上も前なのに予想どおり長蛇の列。列が前に進むにつれ、文化ホールの中から永さんのトークの声がホールの外にまで聞こえてきた。時間前に早く来たお客様への旺盛なサービス精神から「プレ講演」が既に始まっていたのである。

1994年岩波新書で出版された『大往生』は200万部を超える大ベストセラーとなつた。浅草のお寺さんの家に生まれ、亡き父に捧げたこの著書は、父の大好きだった巷に生きる人たちの言葉を軸に「俗談平話」を旨とし、「往生は（死ぬことではない）往つて生きることである」などの言葉とともに多くの人々の飾りのない心に届いた。作曲家・中村八大さんとの「上を向いて歩こう」や、八大さんの第一子誕生を祝つた「「んにちは赤ちゃん」等々。いずみたくさんとの「見上げてごらん夜の星を」「ともだち」等々。数々の国民的ヒットソングを手掛けながら、その二人への心配りから作詞をやめたこと。『職人』『商人』『夫と妻』『親と子』などにみる永六輔流の生き方・考え方。『大往生』の巻末、「弔辞—私自身のために」と重ねながら、遠くへ行つてしまつた稀有名な才能の持ち主を偲んでいる。



## トピックス

# 横村浩資料

## 冊子『空話』のご紹介

神童と言われた高知市出身の詩人横村浩（吉田豊道）ですが、小学校三、四年生の頃になると、当時、綴り方教育に熱心だった担任の海地国喜先生の指導のもと、多くの童謡・童話を書いています。その幾つかは、「横村浩全集」に編まれていますが、大正11年7月発行の『空話』掲載の作品は、全集未収録のものが多くあります。表題には「空話」大正拾壹年七月月中旬 天才 吉田豊道創作、高橋正人繪工」と書かれており、発行は、高知市第六尋常小学校お伽會となっています。高橋正人は、豊道の同級生であり、のちに東京教育大学教授となりました。彼は、豊道の書いた童話や童謡などを一枚の絵で表現しています。冊子の表紙を捲るとそこには樂しそうに楽器を演奏している動物達が描かれています。表情は豊かであり、今にも音楽が聞こえて来そうな絵です。手に取ると、発行人の海地先生の興奮が伝わって来るようです。ここでは、全集未収録の作品をご紹介しましょう。

### 獣の王 吉田豊道作

或時獣の王の獅子が死にました。外の獸は悲しんで泣いて居ますと、虎は言ひました。「私の家には起死回生の薬があります。これをししにつけたら、いきかへるだらう」外の獸は之をほんとうにしてしまひました。虎は「獅子を私に少し借して下されば明日薬をつけて箱に入れて上げます。それであなた方はまつ暗い家をこしらへて戸へぢやうをかけて、その室に一ぱいに成つて箱をあけなさい。そうすれば獅子は生返るでせう」といひました。虎は獅子をもつて家にかへりました。こんな薬はもとよりある筈はありません。それは獅子には一匹の子があつたのですが、虎は自分が獣の王に成らうと考へて皆をだましてこういったのです。やがて翌日になりました。虎はあの箱を外の獸達にやりました。中には何が入っ



▶ 冊子「空話」 高橋正人の挿絵

（学芸課長／

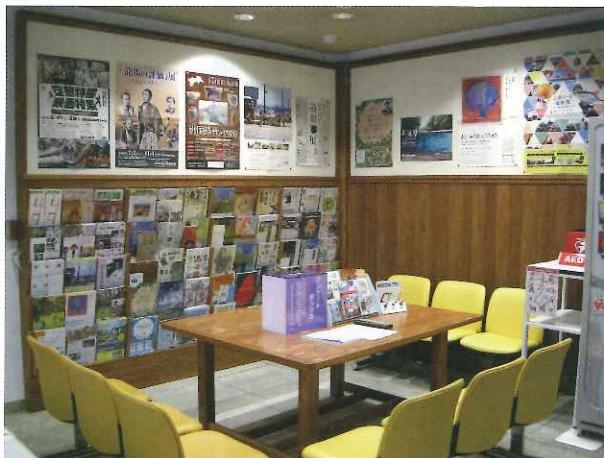
津田加須子）

大正一一六・九

作品としては未熟ですが、賢い百獸の王ライオンと愚かな虎を対比し、動物の斑紋はなぜ出来たのかをテーマに物語は展開しています。当時、友人達を驚かせた渾身の一作を見ることができます。

（完）

て居たのでせうか。中には計りやくでハブや何かの毒蛇や毒の針を出すシシ蜂や色々の毒蜂を入れてあつたのです。さうして皆の獸を殺す積りだったので、どうも怪しいと思つて「病氣だから行けない」といつて行きませんでした。外の獸達は虎のいふ事をほんとうにして、まづ黒い家をしめ切つてふたを開けました。皆はあはてて逃げまどひましたが、どうする事も出来ません。其の中に熊がするどい牙で戸をかみ破つて外へ出ました。つづいて色々の獸が皆飛び出ました。この獸達は皆傷をしましたがこの時傷のなほらなかつた者は残つて今はんもんになつたといひます。外のけもの達は怒つて熊と狼、又めつたに怒つた事のない象までが虎の家を目がけて攻めよせた。虎は「もう皆の獸は死んでしまつただらう」と思つて安心して油断をして居る所へ攻めてこられました。それで虎は今でもあんな大きい、はんもんがあるのです。獅子の子は目出たく熊の助で獸の王となりましたとさ。（完）



文学館1階のミュージアムショップの横には、お客様にご休憩頂けるスペースがありますが、このたびリニューアルをしました。以前は大理石のテーブルにベンチ、壁際にポスターを貼るボーダやチラシラックがあり、少し狭い印象のあつたスペースを改装したものです。チラシとポスターの掲示コーナーを壁に備え付け、大きなテーブルを配しています。このテーブルと掲示コーナーは県産材の杉を用いて作られたものです。

文学館の建物の中は白い壁と、天井や扉などいたる所に木材が使われており、リニューアル後の休憩スペースも2色のコンビネーションがとてもゆつたりとした印象を与えてくれています。

夏休みに入り、ご家族連れのお客様が休憩されている光景を目にしますと、展示をお楽しみ頂くのと同時に、文学館がくつろぎの場所となっていることを嬉しく感じます。

## 文学館休憩コーナーについて

## トピックス

文学館のホームページも  
リニューアル中です！  
近日公開予定！お楽しみに♪



（事業課／大原良子）

# 展 覽 会 レ ポ ー ト

## 「デビュー20周年記念島田ゆか絵本原画展」、大好評開催中です！



▲サイン会の様子

7月9日(土)にスタートした「デビュー20周年記念島田ゆか絵本原画展」、夏休みに入る前からたくさんのお客様に来ていただけおりました。

オープニングした土日には、なんと島田ゆかさん本人が高知に来てください、サイン会を行いました。開館前からたくさんのお客様が整理券を求めて並ばれ、サイン会も大賑わいとなりました。

サイン会後、島田さんがフォトコーナーのところにサインをしてくださったので、残念ながらサイン会に参加できなかつた方も、会期中なら島田さんのサインを見ることができました。お見逃しなく！

また、展示室では、島田さんのカラフルな色彩と、息を飲むような繊細なタッチの原画と、すみずみまで遊び心にあふれた作品の楽しきが、多くのお客様を魅了しています。バムとケロのようにドーナツを積み上げることのできる体験コーナー「ドーナツつみつみ」や、「ありがとうメッセージ」なども、多くの方が参加してくださっています。

他の関連企画も大変好評をいただいているます。8月13日を除く会期中の土曜日に開催しているクイズイベントでは、絵本や原画からヒントを探して、島田さんの作品をより深くお楽しみいただいています。全問正解された方にはバッヂをプレゼントしているのですが、



▲展示室の様子



▲モビール作りの様子

また、「ワークショップ・モビールを作ろう！」では、「バムとケロのそらのたび」をモチーフとしたモビール作りを体験していただけています。りんごやかぼちゃ、飛行機など、絵本に出てくるよつたアイテムを作つてバランスを取るのですが、皆さんのが作られるモビールは、たとえば飛行機にバムとケロが乗り込んでいたり、おじぎちゃんがこつそりぶらさがっていたりと遊び心があつて、こちらも楽しい気持ちになってしまいます。

他にも、かばん作りや、島田さんの作品を中心にして読む9月17日の朗読の会、また9月に予定しているファイナルイベントなど、楽しい企画が目白押しです！

みなさま、今年の夏休みは、ぜひ高知県立文学館の「デビュー20周年記念島田ゆか絵本原画展」へお越しください！

(学芸課／川島禎子)

実施する日によってバッヂのデザインが違うため、何度も来て集めたい！という方もいらっしゃいました。

また、「ワークショップ・モビールを作ろう！」

**9月19日  
(月・祝)  
まで！**

### ～デビュー20周年記念～ **島田ゆか絵本原画展**

場所：企画展示室 観覧料：500円

- クイズイベント ■ … 2016年9月3日(土)、10日(土)、17日(土)  
各日とも9時～16時 当日の観覧券が必要となります。
- 朗読の会 ■ … 2016年9月17日(土) 14時～16時 参加は無料です。
- ファイナルイベント ■ … 2016年9月1日(木)～19日(月・祝)



## 企画展 案内

### ～デビュー20周年記念～島田ゆか絵本原画展

7月9日(土)～9月19日(月・祝) 場所：企画展示室 観覧料：500円

カナダ在住の絵本作家・島田ゆかさんは、人気の「バムとケロ」シリーズをはじめ、魅力的な絵本を世に送り出しています。

島田さんの絵本は、画面の隅々まで驚くほどていねいに描き込まれ、何度も読んでも新しい発見があり、子どもから大人まで大きな支持を得ています。

島田さんの素敵な原画を通じて、絵本の世界をお楽しみください。

展覧会の紹介をしています！ 詳細は7ページをご覧ください。



「あの日からずっといっしょ」  
©Yuka Shimada/Ojigi Bunny Inc. 2014

### 源氏物語展～雅のDNA～

平成28年10月1日(土)～平成29年1月9日(月・祝) 場所：企画展示室 観覧料：500円

1000年よりも前に書かれた『源氏物語』には、恋に生きる男女の心や「あはれ」の情趣が、美しく豊かな筆致で描かれています。また、王朝びとを中心に口伝え・筆写され、様々な写本が伝えられたほか、文学作品や美術工芸のモチーフとしても好まれました。

展覧会では、源氏物語の世界を、各帖の魅力と和歌を中心にご紹介します。壮大な平安文学の世界に浸っていただければと思います。

展覧会の紹介をしています！ 詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。



### スウェーデン児童文学パネル展

平成28年11月1日(火)～11月30(水)

場所：こどものぶんがく室 観覧料：無料

『長くつ下のピッピ』生誕70周年記念パネル展が  
高知へやってくる！(主催：スウェーデン大使館)

計画進行中！お楽しみに

### 犬、猫、作家。～作家とペットの素敵な関係～

平成29年1月21日(土)～3月20日(月・祝) 場所：企画展示室 観覧料：500円

## 第19回 児童生徒文学作品朗読コンクール

当館では、朗読を通して文学に親しむ子どもたちを育てたいと願い、毎年、朗読コンクールを開催しています。子どもたちが一生懸命練習した朗読を聞きに、ぜひ、会場へお越しください。



◆県審査(公開) 表彰式・記念講演会があります。

会場：高知県立文学館ホール

日時：11月13日(日) 午後1時～

地区審査で選出された児童生徒の公開審査  
および表彰式・記念講演会を開催します。

### 記念講演会開催！

「翻訳は、日本語が勝負！？」



『ニ尔斯のふしづな旅』  
(福音館書店)の翻訳で  
おなじみの、

ひし さあらこ  
**菱木晃子先生**  
による記念講演会を行  
います。  
入場無料ですので、ぜひ  
ご来場ください。

### 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時（入館は、午後4時半まで）

休館日 年末年始（12月27日～1月1日）を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 一般360円 企画展はそれぞれ異なります。

20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、

高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、

精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳および被爆者

健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail : bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/>

### 交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス（県庁前行）「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- JR高知駅下車、徒歩20分（または連絡バス・路面電車を利用）
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分



高知県立  
**文学館**

〒780-0850

高知市丸ノ内1丁目1-20

電話 088-822-0231

FAX 088-871-7857

フェイスブック 好評配信中！



[Facebook: https://www.facebook.com/kochi.literary.museum](https://www.facebook.com/kochi.literary.museum)